

## 令和6年度 千歳市市民評価会議議事録

会議名	市民評価会議（第7回）		
日時	令和6年7月17日（水）14：00～17：00	場所	市役所本庁舎2階庁議室
出席者	市民評価委員 7名、アドバイザー 1名、事務局 3名		

評価対象 施策	(1) 学びを支える環境づくりの推進 (2) 学びで育むまちづくり活動の充実 (3) 森林の整備と保全 (4) 交通安全対策の充実 (5) 防犯対策の充実 (6) 開かれた行政の推進
会議概要	6施策について、第4回及び第5回市民評価会議におけるヒアリング内容を踏まえ、評価のまとめを行った。 今後の作業としては、本会議において抽出された評価結果を、事務局が報告書（案）として取りまとめ、第8回市民評価会議に諮ることとした。

### ヒアリング・評価内容

<p>(1) 学びを支える環境づくりの推進</p> <p><b>・評価結果「維持」</b></p> <p>【アドバイザー】</p> <p>本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。                  各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動に必要な機器や備品を低価格で提供し、市民活動の基盤として寄与しており、一定の利用実績があり評価できる。</li> <li>・市民協働を推進する当市において、まちで活躍する市民リーダーの育成は活力あるまちに重要な要素であるため、引き続き人材育成に寄与する施策展開をお願いする。</li> <li>・コロナ禍が明けて活動が増えている中で場を提供できていることは評価できる。</li> <li>・ミナクルの運営や生涯学習活動に関わる人材を継続して育成していくことは、市民活動を進めるうえでも重要な取組であり、引き続き現行の事務事業を進めてもらいたい。</li> <li>・市民活動の拠点であるミナクルを中心に、広報活動や様々な企画を実施しており、指標実現に向けた取組は評価できる。</li> </ul> <p>一方で、「意見」としては</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市がどのように関わって、評価につながっているのかがわかりづらい。</li> <li>・ひと・まちづくりリーダー養成事業費について、どのように活用されているかがわかりづらい。</li> <li>・生涯学習の捉え方の部分にもなるが、育成されていく人数がわからない。</li> <li>・利用者数が低迷していることも考慮し、多様化した市民ニーズに対応できているか注視し、検証を踏まえて施設のあり方の再検討を視野に入れる必要がある。</li> <li>・学区内によって、生徒数が違えばボランティア参加者数も違うので、学校区外でのボランテ</li> </ul>
--

ィア活動も検討してもらいたい。

- ・市民目線ではどうしても「まちライブラリー」と「ミナクール」との関係性や住み分けなどに関心を持ってしまうので、それぞれの設置目的と利用状況、利用者層などがわかる説明があればよかった。
- ・現行の説明では、どのような情報提供を行っているのかわかりづらい。
- ・事中評価の見込値に対して、事後評価の実績値が大きく乖離している。
- ・生涯学習に関する企画・運営は、自治体から外部機関に移植するケースが多いからか、どこかの自治体の取組も似たようなものが多いように感じる。行政側が委嘱する際に、どのようなコンセプトを伝えているのかわかりにくい。千歳独自の取組をアピールしてほしい。

指標というより、活動自体が見えにくい、わかりにくいというのがこの施策の特徴だったのかなと思う。

#### 【委員A】

機能的に被っている施設が徒歩5分圏内に近接している。

まちライブラリーは商業労働課の担当ではあるが、市としては、各々の施設のあり方について議論していない。

ミナクールの設置から20年弱が経過し、市民活動の仕方もこの間にガラッと変わっていると思うが、その点をどのように検証しているのか話がなかった。

#### 【委員B】

両施設ともに、利用者目線から見てわかりやすいコンセプトを出してほしいというはある。

まちライブラリーは気楽に利用できるように工夫しており、他方、ミナクールはカッコリとしたイメージがある。

#### 【委員C】

ミナクールは市と市民団体との協働事業であるが、団体側の動きは良く見えるが、市側の関わりがあまり見えない。

#### 【委員D】

ミナクールとまちライブラリーの市民の認知度がどれくらいあるのか。まちライブラリーは学生の認知度はあると思うが、ミナクールはそこまで認知されていないように思う。

ミナクールは会議や打ち合わせ、まちライブラリーは憩いの場所的なことで住み分けがされていると思う。

#### 【委員E】

施設や利用方法について、もっとPRすべきであると思う。

#### 【委員B】

指標については、他力本願的な指標ではなく、市の取組が評価される指標に変えたほうが良い。

「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。

－異議なし－

## (2) 学びで育むまちづくり活動の充実

### ・評価結果「拡充」

#### 【アドバイザー】

担当課としては、方向性を「拡充」としたが、市民評価会議の中では「保留」とした。

単純に予算を拡大するというだけで「拡充」として良いのかということが悩まれた部分かと思う。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいては、

- ・人件費が増えるとの内容であったが、予算額も増えている。今後これ以上に必要となり、ま

た、事業の内容の追加があるのか。

- ・多くのボランティアの方が地域学校協働活動参加していることは評価できる。
- ・地域学校協働活動推進事業は、多くのボランティアの方が携わっている。方向性を拡充としており、また、予算も増えていることも含め、教育活動の幅を広げていただきたい。
- ・国の施策として教員の働き方改革が進められている。本施策はその流れを受け、地域に根差した学校区コーディネーターを積極的に増員し、多角的な地域教育の充実を目指している点は評価できる。
- ・配置計画などが明確になっていることを考慮したうえで総合評価を判断したい。
- ・ボランティアの延べ人数や出前講座のコンプライアンスなどの事業推進にあたる内容についてもしっかり取り組んでいく必要がある。
- ・教員の負担軽減につなげていくということであれば、そこが明確になる指標があってもいいのではないか。
- ・事業全体がボランティアの方が主体で、計画は市が行い、活動と実績の数字はボランティアと住み分けがあるように見える。
- ・教育現場におけるボランティアの配置が近年、教職員の働き方改革など国の動向を踏まえ、千歳市としても進められていることを理解した。
- ・指標1「地域と学校が連携した教育活動の充実度」について、ボランティアの活動人数を目標値に用いることは理解するが、例えばスキー指導のボランティア活動に何人の児童生徒が参加したかなど、それぞれのボランティア活動により効果をもたらした人数などを示す指標が加われば、この事業の必要性がより理解しやすいのではと感じた。
- ・ボランティアの「延べ」人数となっている点が指標としてやや不的確な感がある。地域に根差した人材ということでは制限はあると思うが、学校教育の多様性を鑑みた場合、様々なバックグラウンドを持った方に協力いただく方向性が必要である。
- ・地域のことを学んで、それを地域に活かすためには、まず地域のことを学ぶきっかけが重要である。ビデオオンデマンド型の教材を揃え、アーカイブ化しておくことが望ましい。
- ・本施策の方向性として「拡充」とするのであれば、すでに指標的には100%を満たしているため、何らかの拡充する根拠が問われると思う。

**【委員D】**

「拡充」というと、何らかの新たな事業が増えるというような印象であり、単に人数を増やすということだけであれば「拡充」でよいのか。

**【委員F】**

「拡充」という方向性に異論はないが、「拡充」したいというように見えるような新たな指標があるとよい。

**【委員E】**

学校区コーディネーターは現在10名であり、すべての小中学校区に計27名配置するというのが最終的な目標である。その数値を指標にするはどうか。

**【委員B】**

委員Fや委員Eがおっしゃるように、「拡充」のプロセスが見えるような指標があるとよい。

「拡充」ということの心持ちは皆さん理解されていることと思うので、指標や市の取組の姿勢などをもう少しわかりやすく整理していただきたい。

市民評価会議における方向性について、「拡充」にすることに異論はないか。

ー異議なしー

**(3) 森林の整備と保全**

・評価結果「維持」

**【アドバイザー】**

この事業についても、担当課としては、方向性を「拡充」としているが、市民評価会議の中では「保留」とした。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいても、「拡充」とすることの妥当性や根拠が見えないといった意見があった。

評価という部分では、

- ・限られた私有林の中で森林組合と連携しながら、長期的展望に立って植栽や伐採を粛々と進めている点は評価できる。
- ・担い手育成は重要であり、道立森づくり専門学院に千歳市として賛助会員として参画し、担い手育成を支援していることは評価できる。
- ・森林環境譲与税が施行され、民有林の整備に進展があったことは評価できる。
- ・森林作業就労者の育成事業は、将来の林業に繋がるものであり評価できる。
- ・森林環境譲与税の市における活用状況など、担当からのわかりやすい説明により理解することができた。

一方で、「意見」としては、

- ・近年、市内でも森林伐採し、ソーラーパネルが設置されているところが多く見られるので、保全の重要性を広く市民に知らせることも重要であると感じる。
- ・森林経営管理制度は、地権者との合意がなされて整備が行われる事業であるが、将来を見据えて整備地区を分割し、安定的なサイクルで事業が展開されることを期待したい。
- ・対象者がかなり限られている印象を受ける。今後市民向けの事業を検討しているのであれば、より多くの市民に波及する取組とすべきである。
- ・森林への関心を高めることを積極的に進めるのであれば、例えば市の施設における木材使用推進を市の方針として位置付けるなど、市の姿勢を市民に示す仕組みがあってもよいのではと感じた。

**【委員B】**

拡充といっても、市の主体的な拡充と、国の政策などに影響される拡充とがあると思う。

市民に説明するためには、もうちょっと具体的な姿勢を見せてもらいたい。

**【アドバイザー】**

単に森林環境譲与税を受けながら粛々とやるべき調査をやっているという状況であれば、拡充ではなく維持でもいいのかもしれない。

**【委員D】**

国有林との関係があるので難しいとは思いますが、「森林を育成する」という言葉は、何年か前に評価を実施したアイヌ施策でも出てきていた。千歳っぽさというのを考えるとアイヌと結びつけることはできないのかと感じた。

**【アドバイザー】**

いただいた意見を踏まえ、市民評価会議の方向性としては「維持」とするか、今後、市民向けのワークショップはじめ、市民がさらに森林や木に触れる機会を増やすべきであるというのを竜として「拡充」とするか。

**【委員C】**

担当課の意向は「拡充」であるが、市民目線ではその内容では「維持」と考える。

**【委員B】**

「拡充を期待する維持」ということでもいいと思う。

**【アドバイザー】**

「拡充を期待する維持」ということであれば、理由の中に、「明確な施策展開が見えない」というワードを入れることによって、そこが見えれば会議としても「拡充」を応援できるということ

を伝えることができる。

**【委員A】**

例えば、民有林が保全されることによって何パーセントのCO2が削減されているというような「効果」を市民に訴えかけていかないと、なかなか理解されにくいのではないかと。

**【委員B】**

大変だとは思いますが、観光や教育、ゼロカーボンなど、市内における連携した事業の展開を期待したい。

この会議での方向性は、今後の事業展開への期待も込めた「維持」とすることで、異論はないか。

－異議なし－

**(4) 交通安全対策の充実**

**・評価結果「維持」**

**【アドバイザー】**

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

- ・交通安全の啓発や教育、抑制に向けた取組みが確認でき、評価できる。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、人の動きが活発化していることを踏まえて活動できており、一定の効果があるように思えた。
- ・交通安全への取組が子どもから高齢者まで幅広く行われていること評価できる。
- ・北海道公安委員会に対する要望を継続して実施していることを踏まえ、今後も交通安全対策を着実に進めていただきたく、評価は「維持」が妥当と考える。
- ・交通事故件数の減少傾向を受けて、交通標識の整理を抑制する国の方針の中で、関連部署と連携し、交通事故を未然に防ぐ取組を推進している点は評価できる。
- ・後期高齢者の運転免許証の自主返納を促進するため、バス利用券のみならず、タクシーを利用可能とするなど、市民ニーズに柔軟に responding している点は評価できる。

一方で「意見」としては、

- ・交通安全指導員の配置に関しては、充足率100%を目指し、関係機関と調整し施策を展開していただきたい。
- ・小中学校の交通安全教育を実施している実績と高齢者向けの交通事故の減少に向けた取組みも数値に表した方が理解しやすいと感じた。
- ・千歳市においてどのような事故が発生しているのか、原因は何なのか、どのような方が被害者や加害者になっているのかなどの説明があると市の交通安全対策への理解がより深まったと思われる。
- ・指標1「人口1千人当たり交通事故発生件数」について、人身事故発生件数とのことなので、指標内容の説明や目標値の数値の取扱いなどを見直した方が良い。
- ・交通安全指導員の増員に対する予算計上がしっかりと計画されており、交通弱者である児童のより一層の安全施策の推進を期待する。

**【委員B】**

交通安全指導員の充足率を指標とすると、取組の方向性が見えるのではないかと。

**【アドバイザー】**

委員からの意見で、事業のマンネリ化というのがあったが、千歳市ならではのオリジナリティのある取組は何か想定されるか。

**【委員B】**

千歳市ならではの交通事故の特徴などがあればそこから考えることはできるかもしれない。

**【委員A】**

一つ言えることとしては、千歳市は観光客のレンタカーの起点になっている。

**【アドバイザー】**

レンタカーは、長い距離を走行して事故を起こすよりも、借りてすぐに事故を起こす傾向がある。

観光客が事故を起こしているのか、市民が事故を起こしているのかというところは区別した方が良いかもしれない。

**【委員B】**

「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。

－異議なし－

**(5) 防犯対策の充実**

**・評価結果「維持」**

**【アドバイザー】**

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、皆さんの評価のポイントが合致しており、「維持」とする理由としては、

- ・地域と共同して防犯の取組や犯罪抑止に向けた取組が行われていることは評価できる。
- ・防犯団体との連携などの地域に根差した防犯活動や、防犯灯の整備・維持管理を計画的かつ継続的に実施している点が評価できる。

一方で、「意見」としては、

- ・防犯カメラの設置については、千歳市は都市化が進んでいくことは明白であり、調査研究を重ねていただきたい。他方、この問題は人により意見が大きく異なると思われる。
- ・いずれの指標も目標を達成している状況にあるので、今後は回数だけではなく、質的な部分の充実を期待したい。
- ・街路灯・防犯灯維持管理経費が、施策全体の総事業費のほとんどを占めている。電気料金は高騰する傾向があるので、是非とも低コスト化の方策について中長期的な検討を期待したい。

**【委員B】**

「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。

－異議なし－

**(6) 開かれた行政の推進**

**・評価結果「維持」**

**【アドバイザー】**

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、「維持」とする理由としては、

- ・文書管理の方針を確認することができ評価できる。
- ・ファイリングシステムについては、各部署の実情がわかり、また、目標達成に向けての工夫が図られている点が評価できる。
- ・情報公開、個人情報等事業の管理、市民の声を市政に反映することが総合的に進められており、評価できる。

一方で、「意見」としては、

- ・DX化を見据え、他の施策と連携しながらより効果的かつ効率的な文書管理手法を模索してほしい。
- ・電子化やペーパーレス化を推進していただき、経費の節減を進めていただきたい。
- ・要覧ちとせについては、要約版や子ども向け版など、市民にとってわかりやすく、有効に活用できる取組を期待したい。
- ・指標「市民の意見を聴く事業数」は施策を評価するには至らないと思われることから、適切な指標の設定をお願いしたい。
- ・製本版の要覧ちとせについては、近隣市町村でも販売している箇所もあるため、今後の在り方について検討していただきたい。

**【委員A】**

近隣で札幌市は、要覧（札幌市政概要）を360円で販売しているようである。

**【委員B】**

10年、30年など過去のデータが集約された要覧があると良いかもしれない。

**【アドバイザー】**

市民協働事業の枠組みで、市民団体が実施するような取組も可能かもしれない。

**【委員B】**

「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。

－異議なし－

**◎評価全般に関する意見について**

**【委員C】**

今年の会議の中で、指標の項目が適していないというような意見があったが、第6期総合計画のときと比べると大分わかりやすくはなっている。

**【委員B】**

私も職業柄、データを活用する機会が多いが、やはり行政は様々なデータを持っているので、プライバシーに配慮するというのが前提ではあるが、リアルなデータを活用して、千歳市ならではの施策の展開に活かしていただきたい。

指標については、市民にわかりやすいということはもちろんであるが、市の担当者の頑張りが反映される指標とすべきである。

**【委員E】**

庁内の横の連携を考えたいうえで、施策を展開してほしい。

**【委員B】**

「地域と連携した除雪・排雪」の施策では、SNSやYouTubeが活用されており、非常に評価できることから、他の施策でも同様の展開を期待したい。

ただし、ITに弱いであるとか、高齢者といった方たちには一定の配慮が必要である。